

仁頃山		標高
にころやま		829m
登り	1:40	5:10
山頂	0:30	
下り	3:00	

△△ 仁頃山〔管理車道・東尾根道〕△△

3月20日晴れ気温マイナス6度、緩みかけた寒さが舞い戻りWebカメラで石北峠と北見峠を覗いて見ると雪模様なので、予定していた北大雪のチトカニウシ山を変更し、スケートリンクのような国道333号線を仁頃山へと向かいました。

いつまでたってもメタボが解消しない風邪気味隊員と明らかに二日酔い隊員を率いる〇山隊長のへっぽこ登山隊3人は、冬も人気の管理車道登山口から山頂を目指し、登山道は踏み固められツボ足で十分行けそうですが、「帰りは東尾根道を下ろう」ということになりスノーシューを背中にぶら下げると結構な重量で汗が滲みます。

いつもながらのゆっくりペースですが、送電線沿いの斜面をショートカットするたびに息が上がり、雪煙を巻き上げながら吹き付ける風が心地よく汗を拭ってくれます。

5合目あたりで後方の視界が開け北見の市街が一望できるようになると、振り返ることも多くなってさらにペースダウン、7合目の「元気の木」でパワーをもらい立ち並ぶアンテナを仰ぎながら進むと雪庇に覆われた山頂に到着、晴れていれば北大雪の山並が見えるはずですが白い雪雲の中、遠景は残念ながらどの方向も霞んでいました。



山頂標識の周りはきれいに雪かきされ、風を遮ってくれるのでのんびりと休憩できましたが、北西の強い風が雪と一緒に吹付けてきたので早々に昼食を済ませ、スノーシューを履き9合目から目印のテープと踏み跡を頼りに東尾根入ると、山頂からは陰になる東側のパノラマが広がり、せり出した見事な雪庇を横目に急な壁を何度か滑り降り、544メートルのピークから右手の沢へ方向を変えジグザグの登山道で一気に高度を下げ、清流沢に架かる橋を渡ると次の尾根が待ち構えていました。

「下りは楽」というメタボ隊員の常識を覆し終盤に沢と尾根を2本も越えるのは超過酷な修業、ホームページに「健脚向け」と書いてあったのが戒めのように頭をよぎりますが後の祭り、雪がちらつき折れそうになる気持ちを立て直しなんとか東尾根道の登山口に到着、雪の山道を10キロ近く歩くのはキツイのですが、人気のある管理車道と一線を画した静かな景色を堪能できました。

本日の教訓「標高で侮るなかれ仁頃山 等高線が戒める」